

伏見山ふしみやま

〔今の城山なるべし。一名松原山、山峯に古松多し〕

拾遺愚草

伏見山妻こふ鹿の涙をやりほの庵の萩のうへの露

定家

玉吟

ふしみ山秋の田面の色づくは松のみどりぞよそになり行

家隆

八月十五日ふしみにみゆきありて、人々に

哥よまさせたまひけるつるでに

御集

軒近き相原山の秋風にゆふぐれきよく月出にけり

伏見院

伏水の霸跡は、文禄三年ほうたいかふ豊太閤初て城を營給ふ、監官は佐久間河内守、滝川たきかはふ豊前守、佐藤さとう駿河守、水野みづの亀之助、石尾いしをよ与

兵衛也。厥后慶長五年七月晦日、石田みつなり三成が叛逆にて、金吾きんご秀秋、宇喜田うきた秀家、此城を攻る。江州ながはら永原の兵卒敵を通じ

て落城す。城将鳥居内藤侯など戦死して美名を永世に輝す。今は荒廃田園となつて、桃花ひまなく、弥生の盛には遠近

人こゝに游宴す、特にことは宇治見〔月見の岡ともいふ〕風色幽妙にして絶勝の名区なり。

宇治白く桃さく陰の花菜かな

信徳

大名の字を桃のはたけ哉

正秀

月見せんふしみの城の捨廓

去来

水寒し生駒につゞく春の水

移竹

山河存_シ旧色_ヲ。

林樹競_フ芳菲_ヲ。

荒苑彈丸尽。

梅華仙

空_ク看_ル春鳥_ノ飛_{コトヲ}。

多少田夫_ノ屋。

相連_ル古壘_ノ間。

幼兒纔_ニ五歲。

同

能說_タ破_ル三韓_ヲ。

高台見_ニ陳跡_ヲ。

倚_テ杖_ニ日黃昏。

空谷多年_ノ恨。

同

桃花終不_レ言_{イハ}。